

一関・平泉

商品開発やDX化へ意欲 2人が新たに活動 一関・地域おこし協力隊

2024年4月2日付 紙面



一関市の地域おこし協力隊員に委嘱された（左から）山川さん、佐藤さん

一関市は1日、新しい地域おこし協力隊員として相模原市出身の佐藤萌香さん（23）と、福島県いわき市出身の元医療事務山川智美さん（35）を委嘱した。佐藤さんは東山地域コーディネーターとして東山和紙づくりや商品開発、山川さんはデジタルラボ一関に所属し、一関市内の企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）化推進などの業務に携わる。

市役所で委嘱状交付式が行われ、佐藤善仁市長が「任期は1年となっているが、制度上は3年間可能。一関市をいろんな角度から知っていただき、刺激してほしい。3年後にはぜひ一関市の人になってください」と2人の定住に期待した。

佐藤さんは、3月に多摩美術大情報デザイン学科を卒業したばかりで、在学中に応募した。偶然ながら弟の匠さんも同市の隊員としていちのせきニューツーリズムで活動中。佐藤さんは「東山和紙の勉強のほか、東山地域の歴史や和紙が発展した理由をまずは知りたい」と抱負を語った。

一方、山川さんは、募集サイトを通じて応募した。一般社団法人デジタルラボ一関に所属し、企業のDX化や業務効率化を支援する役割を担う。「人と仲良くなり、どのような困り事があるのか、どのように解決したいのかを的確に把握して任務を遂行できればと思う」と話していた。

ポスト

LINEで送る

[← 前のページへ戻る](#)